

★学校教育目標 敬愛・自由・勤労 ◎考える子 ○はたらく子 ○心ゆたかな子 ○健康な子		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）		目指す学校像「笑顔招福～SMILEFUL150years潤徳小～」を具現化することで、開校150周年の取組をはじめ、本校の教育活動で笑顔になった児童が、そのことを保護者に伝え、さらに地域に広がる「笑顔のサイクル」をつくり、本校に関わる全ての方が幸せを感じることができるようにする。また、「第3次日野市学校教育基本構想」に示された「すべての“いのち”がよろこびあふれる未来をつつていく力」を児童に身に付けさせ、この地域を愛し、将来、社会の形成者として地域を支える人材の育成を目指す。	
【めざす児童・生徒像】 笑顔いっぱい、元気いっぱい、やる気いっぱい、潤徳の子			
【めざす学校像】 笑顔招福～SMILEFUL150years潤徳小～			
【めざす教師像】 「できない」ではなく「できるためにはどうするか」と考える教師 地域にある学校として、地域を愛する教師 自らの職責と使命の重さを自覚した「プロ意識」の高い教師			

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策	
				評価点	取組指標			評価点
かかわり	学校キャッチフレーズ「笑顔招福～SMILEFUL150years潤徳小～」の啓発と具現化	○「日野市市制60周年 開校150周年」を教育活動の柱に据え、今年度ならではの児童の笑顔が見られる取組を推進する。 ○学校評議員会、JSP、教職員の開校150周年行事に関わる組織体が連携し、学校と地域が一体となった独自性のある取組を展開する。	・原則として全ての学校行事等に「日野市市制60周年 開校150周年記念」の冠を付け、プラスアルファの取組を推進する。 ・本校の新しいオリジナルマスコットキャラクター、「ウーリー」と「サクラムチ」を広報活動等で活用し、キャラクターをデザインした記念Tシャツの着用、横断幕の作成等を通して一体感を育む。 ・児童が笑顔で活動する様子を学校ホームページや動画配信等で積極的に発信する。	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	保護者アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	開校150周年に関するイベントが児童を中心に企画・運営がされている。1年間を通して、思い出に残る記念すべき年となっている印象を受けている。今後も児童による、児童のための活動を推進して欲しいと願っている。教職員がより笑顔で、元気になる職場になればと願っている。
				3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	保護者アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上	
				2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	2	保護者アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上	
				1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	1	保護者アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満	
かかわり	特色ある学校づくり支援事業の推進	○令和5年度日野市教育委員会特色ある学校づくり支援事業の対象である、熊本県上益城郡山都町立潤徳小学校との交流「東西潤徳小学校コラボレーション」の充実を図る。	・特徴的な地域（日光、長崎等）からのオンライン生中継、Google Meetを活用したオンライン交流を実施する。 ・校内研究とリンクし、一人一台の学習者用端末を活用した、両校の児童同士の多様な意見交換を目指した共同授業を実践する。 ・本校の開校150周年の取組、山都町立潤徳小学校の開校に向けた取組に相互に関わり、日常的な交流を通して、心の通った結び付きを強める。	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	新たな挑戦と発想力が、よいと感じる。山都町立潤徳小学校の児童との交流は、立地や環境等が違う児童とのつながりであり、お互いの児童の視野が広がる素晴らしい取組である。山都町立潤徳小学校が閉校になってしまうのは残念であるが、今後も他校との交流の場を設定して欲しい。
				3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上	
				2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上	
				1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満	
学び	ICT機器や学習者用端末の効果的な活用による、誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びの実現	○一斉学習、個別学習、協働学習の学習場面に応じて、ICT機器を効果的に活用する。 ○校内研究等を通じて、教員のICT活用指導力等の向上を図る。	・写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作や発表を通して、プレゼンテーション能力を育成する。 ・「ミライシード」等の活用により、端末上で互いの意見を交流し、対話を通して自らの考えを深める協働的な学びを推進する。 ・校内研究のテーマを「主体的に考えを表現し、学び合う児童の育成～Chromebookを活用した対話的な学びの実現～」とし、年4回の研究授業、全教員による公開授業等を通して、指導力の向上を図る。	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	最近では、一人1台学習者用端末の活用が当たり前と感じられるようになってきている。より様々な場面で、より高度に活用をして欲しいと思う。そして、一人1台学習者用端末を活用し、よりグローバルな授業を推進して欲しいと願っている。
				3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上	
				2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上	
				1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満	
地域	地域を巻き込んだ持続可能な社会づくりの取組の推進	○教科横断的な活動を通じたSDGsの取組を推進する。 ○地域関係者等と連携した体験活動を推進する。	・「SDGsカレンダー」に基づいた計画的かつ教科横断的な取組を推進し、児童が17のゴールを意識して活動できるようにする。 ・地域関係者や行政と協力した環境保全や栽培活動の取組を推進する。また、浅川、近隣の公園、校舎裏のトンボ池等の観察等を通して自然環境について考える機会とする。 ・地域を学習材とすることで、地域を愛し、将来にわたって地域を支える人材の育成を図る。	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	SDGsの活動に停滞を感じている。2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された17のゴール・169のターゲットを意識した取組を2030年という期限を間近に控えて、改めて活動の盛り上がり方を期待する。
				3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上	
				2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上	
				1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満	
いのち	自他を敬愛し尊重する児童の育成	○「潤徳小さいじめ防止基本方針」に基づき、いじめの解消率100%を目指した取組の充実を図る。 ○よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため道徳教育の充実を図る。	・年3回の「学校生活アンケート」の実施、学校いじめ対策委員会、スクールカウンセラーによる児童面接等により、児童一人一人の状況を把握し、いじめの芽につながる行為が確認された場合は、100%の解消を目標に、迅速に対応する。 ・道徳授業地区公開講座等を活用し、家庭や地域との連携を図るとともに、日常的に「考え、議論する道徳」の授業を行うことで、児童の「道徳的実践力」を育成する。	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	いじめの認知は、本人の感じ方次第ということもあり、「解消率100%」という達成は、なかなか難しいと思うが、引き続き、学校として取組を充実させて欲しい。そして、児童に対して、より早期に対応できるようにして欲しい。
				3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上	
				2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上	
				1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満	
いのち	保健衛生や安全に気を付け、体を鍛える児童の育成	○児童の健康や安全を守るための取組を推進する。 ○食に関心をもち、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける児童を育成する取組の充実を図る。 ○運動に継続的に親しみ、体力向上を図る取組を推進する。	・手洗いの習慣化や換気の励行による感染症予防、夏季のWBGT数値測定による校外活動の実施の判断等の取組を徹底する。 ・生活安全、交通安全、災害安全に関わる教育を組織的・計画的に実施する。 ・栄養士や食育リーダーを中心とした、計画的・継続的な食に関する指導の推進する。 ・体力向上月間を3回設け、昨年度の体力調査の結果の分析を踏まえ、計画的に児童の体力を伸ばす取組を推進する。	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から様々な教育活動が制限されていた影響によって、子供たちの体力は低下したと感じている。この体力低下の回復を積極的に行って欲しい。なにより、食と体力は大事です。児童の食と体力について、気遣いして欲しい。
				3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上	
				2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上	
				1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満	
かかわり	児童一人一人に徹底的に関わる指導の充実	○児童一人一人の状況に応じた適切な指導と必要な支援の充実を図る。 ○関係機関、専門家との連携による組織的な取組を推進する。	・児童の学習のつまづきをそのままにしないための、習熟度別指導の充実及びリソースルーム、学力向上支援者等の活用を図る。 ・ステップ教室、せせらぎ教室、わかば学級等との連携による一人一人の児童の状況に応じたきめ細かい指導を実施する。 ・全学年に特別支援教育コーディネーターを配置し、校内の支援委員会等で情報と対応の共有化を図る。 ・メール、子ども家庭支援センター、児童相談所等の関係機関との連携による多面的な支援を実施する。	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	関係機関や専門家を積極的に活用をして、しっかりと児童の人格を形成していただきたい。児童一人一人の個性に合わせた指導を引き続き行って欲しい。
				3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上	
				2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上	
				1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満	
かかわり	他者との人間関係を形成していくコミュニケーション能力を育成し、自己肯定感を高める教育の充実	○他者とのコミュニケーションを図る機会の充実を図る。 ○特別活動の充実により、児童の自己肯定感を高める取組を推進する。	・他者の意見を聞き、自分の考えを深めるとともに、自分の意見を積極的に発表する授業の充実を図る。 ・英語専科、ALTの指導による外国語、外国語活動の充実を図るとともに、低学年においても英語に触れる活動を取り入れ、コミュニケーションを楽しむ機会を積極的に設ける。 ・開校150周年の取組に加え、たてわり班活動、集会活動、委員会活動、クラブ活動等の異年齢交流活動の充実を図り、上級生が下級生の世話をすることで役に立つ喜びを感じ、自己肯定感を高められるようにする。	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	社会において、コミュニケーションは大事です。人格を形成するうえで大事な場である小学校で、しっかりととした教育をして欲しいと願っている。大谷選手から寄贈されるグループは、クラブ活動や野球チーム等で児童がいつでも、誰にでも利用できるようにして欲しい。
				3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上	
				2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上	
				1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満	

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。